

## 現代に生きる孔子の言葉——『論語』から平和を考える

花岡 風子

5月29日あさおサークル祭2016年にて植田渥雄先生の講演が行われました。30名ほどが集まり、植田先生の語る魅力あふれる『論語』の世界に引き込まれた1時間半でした。植田先生はお話の中で、『論語』の知識を以てオバマ大統領の話を知ると非常に良くわかると言われたので、私も改めてオバマ大統領の広島演説を聴き、所々、成程と納得した次第です。

以下、講演で得た知識と感想をまとめてみました。

### ※孔子とはどんな人物？

孔子とは、中国春秋時代の魯の国の人。今から2500年前に活躍しました。武力を否定し、仁義と礼節に基づく政治を主張。おなじみ儒家の元祖です。儒家は秦の始皇帝に徹底的に弾圧されるも(焚書坑儒)、その後、漢王朝以降、歴代王朝の基本思想となり、日本の歴史、制度、文化にも、大きな影響を与えています。

### ※春秋時代とは？

春秋時代とは、周王朝の権威が衰え、大小様々な国が乱立し、互いに覇権を競い、大いに秩序が乱れた時代。孔子が編纂したと伝えられる『春秋』という、魯の国の歴史書が書かれた時代なので、後に春秋時代と呼ばれることに。春秋とは四季、日月、時の流れを表す言葉で、日本の雑誌『文藝春秋』はここからきています。

### ※『論語』とは？

『論語』とは、主に孔子と弟子たちの問答集。成立年代、編集者は不詳。内容は項目順に述べられているわけではないので、どこからでも読める。

### ※『論語』にみられる、孔子の平和主義

『論語』の中で、今回、「孔子の平和主義」をテーマに植田先生が紹介してくださったのは以下の四章。一つ一つ意味を辿ってみます。

#### 1. 魯の国の貴族と孔子の問答。

「もし悪い奴を殺して、いい奴だけを残したらどうであろう？」

孔子の答え。「あなたが政治をするのに、どうして人を殺すという手段を用いる必要がありますか？ あなたが良い人になれば、民も良くなります。君子の徳は風、民の徳は草です。草は風に当たると必ず伏せましょう」

◆悪い人間を抹殺すればそれで良い、という考えを現代人も捨ててきていません。

それに対して孔子は、悪を殺す必要はなく、あなたが変われば世界は変わる、と言っています。全て自分次第。まずは自分から正しなさい、と諭しています。正に哲学！

#### 2. 次に子路という勇猛タイプの弟子が質問します。

「もし先生が軍隊を率いるとしたら、誰と組ま



れますか?」と。

孔子の答え。「素手で虎を倒そうとするような無謀な奴とは組まんね。いざという時には恐れることを知っている人、外交、戦略を用いて戦いを防ごうとする奴と組むね」。

◆孔子は人を見て法を説くスーパー先生。弟子の能力や性格によって、その時々によって答えを変えて教えています。普段は勇気が大切だと解きつつも、つい勇み足になる性格の子路にはこのように答えているのです。

外交によって防げる戦いはしない、との考えはオバマ大統領の言っていることと一致しています。

### 3.次に子貢という知的で雄弁、人間的にも出来た人であった弟子が難しい質問をぶつけます。

子貢が政治の要点とは何かと孔子に問いました。

孔子の答え。「食糧を十分にすること、軍備を十分にすること、民衆との信義を確立することだ」

賢い子貢はありきたりの質問をしません。続けて質問します。

「どうしてもやむを得ない事情によってどれかを捨てるとしたら、この三つのうち、どれを先に捨てますか?」と。

孔子は即座に「軍備だ」と答えます。

子貢はまだ食い下がります。

「どうしてもやむを得ない事情でどちらかを捨てるとするなら、この二つのうちどれを先に捨てますか?」と、師を問い詰めます。

「食糧だ。食料がなければ、人は死ぬことにな

るが、(たとえ食料があったとしても)昔から死はすべての人間のまぬがれないところである。しかし、もし人民に信頼の心がなかったら、人間として社会生活を送ってゆくことはできない」と。

◆「信無くんば立たず」は政治家故三木武夫首相、小泉純一郎元首相が座右の銘としていた言葉らしいです。これも『論語』が原典だったのですね。天災など、政治の力ではどうしても救えない生命はある、しかし政治に対する信頼や民衆間の信義があれば、復興は出来る、と言っているのです。2500年前の言葉とは思えないほど、生き生きと現代に通じますね。

### 4.これも子貢の質問です。

「人として生涯かけてやるべき事を漢字一文字で表すとしたら何か?」との問いに「ああ、それなら恕じょだなあ」「自分がして欲しくないことを人にしないことだね。」と答えています。

◆「恕じょ」とは、許すこと。人として最も大切なことは寛容の精神だと言うわけです。と言ってもベタベタグニャグニャつかみどころのないような人が良いと言っているわけではなく、「自分がしてほしくないことは、人にもしない」という、柔らかい心と固い意志の両方が必要、ということを読んでいるのだと植田先生から教わりました。

『論語』の世界。実際に聞いてみると、まるで孔子が古代から今を覗き見てコメントを発しているような錯覚に陥りました。日本人の古典離れで、忘れられがちな『論語』ですが、これを機に、もっともっと知りたいと思いました。